

平成 27 年 11 月 19 日
株式会社日本政策金融公庫**「北海道畑作」「養豚」「ブロイラー」は増収増益
「稲作」「茶」「肉用牛肥育」は個人、法人とも減益
～「平成26年農業経営動向分析結果」について～**

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、毎年ご融資先の農業者の決算データを基に、経営部門ごとにその動向を分析しています。

平成 26 年の決算データ（対象 6,636 先）を部門別に分析した結果、北海道畑作は豊作による収量増加で、また、養豚・ブロイラーは販売価格高に支えられ、増収増益となりました。一方で、稲作、茶は販売価格安などにより、また、肉用牛肥育はコスト上昇などにより個人、法人とも減益となりました（詳細は別紙を参照）。

<調査結果のポイント>

○ 耕種部門は北海道畑作が増収増益、主力の稲作は米価安響く

稲作は、26 年産米の収量が前年産と同水準だったものの、米価が 25 年産に比べ、低下したことなどにより、個人、法人ともに減収減益となりました。

北海道畑作は 26 年産の作柄が天候に恵まれ、改善したことを受け、個人、法人ともに増収増益となりました。

茶は、26 年産の一番茶の生産量が回復しましたが、取引価格が前年を下回ったことなどにより、個人、法人ともに若干の減益となりました。

○ 畜産部門は養豚、ブロイラーが増収増益、肉用牛は素畜費高など影響

養豚は、26 年の豚肉卸売価格が前年を上回る価格で推移したため、個人、法人とも増収となり、利益も大幅に増加しました。

ブロイラーは、牛肉・豚肉が高値の中、堅調な需要に支えられて、鶏肉卸売価格が上昇したことを受け、個人、法人とも増収増益となり、法人は黒字転換しました。

一方、肉用牛肥育は牛肉卸売価格が全品種とも前年を上回る価格で推移したことにより、個人、法人とも増収となったものの、飼料費や素畜費などの材料費が増加したため、個人、法人ともに大幅な減益となりました。

分析対象先：農業を営む日本公庫のご融資先のうち 6,636 先（個人 4,996 先、法人 1,640 先）
対象経営部門（農業収入の第 1 位部門で区分）

①耕種 8 部門：稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、きのこ

②畜産 5 部門：酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー

対象決算期：平成 24 年～26 年までの 3 か年を経年比較

法人は各年 12 月～翌年 3 月が決算期のもの

平成26年農業経営動向分析(耕種)

経営部門		個人経営			法人経営			概要	
		サンプル数	売上高	農家所得(専従者給与控除前)	サンプル数	売上高	経常利益		
耕種	稲作	北海道	65	↓ ▲5.5%	↓↓ ▲26.2%	709	↓	↓↓	26年産の水稻の作柄は、全国平均の単収が536kg/10a(作況指数101)となり、前年産の単収(539kg)とほぼ同水準となった。一方、26年産の米価は、需要の減少や26年産の作況を受けた在庫過剰感から、前年産比83%と下落。個人・法人ともに単価下落の影響で減収減益となった。
		都府県	1,482	↓ ▲7.0%	↓↓ ▲33.1%		▲5.4%	▲73.0%	
	北海道畑作		30	↑ 8.5%	↑↑ 23.9%	29	→ 0.6%	↑↑ 42.9%	26年産の作柄は、天候に恵まれ、生育が概ね良好だったことに加え、前年がやや作柄不良であったこともあり、小麦、豆類(大豆、小豆)、春植え馬鈴薯、てん菜の5品目全てで前年を上回った。作柄改善を受け個人は増収増益、法人は売上前年並(100.6%)も増益となった。
	果樹		331	→ 0.0%	→ 百万円未満	37	→ ▲1.6%	↓↓ ▲47.2%	個人について、売上高(100.0%)・利益(94.5%)と売上前年並も減益。法人について、売上高は前年並(98.4%)も経費が増加したため、減益となった。
	露地野菜	北海道	72	↑↑ 31.0%	↑ 13.3%	54	→	→	個人について、北海道はたまねぎの収量増加等により、前年比増収増益となった。一方都府県は売上は前年並(100.4%)であるが、材料費・労務費などが増加し減益となった。法人は売上高(102%)利益(94.7%)ともに前年並となった。
		都府県	392	→ 0.4%	↓ ▲11.2%		2.0%	百万円未満	
	施設野菜		706	→ 2.0%	→ 百万円未満	55	→ 4.6%	→ 百万円未満	個人は収入(102.0%)・所得(90.4%)ともに前期並。法人は売上前期並(104.6%)も赤字幅拡大(▲1.1百万円→▲1.7百万円)となった。
	施設花き		204	→ 1.2%	→ 百万円未満	28	→ 1.1%	→ 百万円未満	個人について、収入(101.2%)・所得(98.5%)ともに前期並となった。法人について、売上は前年並(101.1%)も、労務費・人件費等の増加により赤字転落(1.1百万円→▲0.2百万円)となった。
	茶		181	→ ▲3.6%	→ 百万円未満	46	→ 0.7%	→ 百万円未満	個人は荒茶の取引価格下落を受けるも収入(96.4%)、所得(92.8%)ともに前年並。法人は売上(101.7%)・利益(1.1百万円→0.3百万円)と売上前期並も減益。
	きのこ		27	→ 1.0%	→ 百万円未満	24	↑ 9.9%	↑↑ 51.9%	個人は収入(101.0%)・所得(85.4%)と収入前年並も減益。法人は増収増益。

・前年比(売上高) ↑↑ :10%以上増 ↑ :5~10%増 → :±5%増減 ↓ :5~10%減 ↓↓ :10%以上減
 ・前年比(所得・利益) ↑↑ :20%以上増 ↑ :10~20%増 → :±10%増減 ↓ :10~20%減 ↓↓ :20%以上減

注:所得・利益については、増減幅が百万円未満の場合は上記によらず → とした。また、黒字転換の場合は ↑↑、赤字幅縮小の場合は ↑ とした。

平成26年農業経営動向分析(畜産)

経営部門		個人経営			法人経営			概要	
		サンプル数	売上高	農家所得(専従者給与控除前)	サンプル数	売上高	経常利益		
畜産	酪農	北海道	60	→ 4.6%	↑ 16.8%	87	↑ 5.6%	→ 百万円未満	個人について、北海道、都府県とも乳価引き上げを受け、収入はそれぞれ前年並(北海道104.6%、都府県103.8%)、所得は増益(北海道116.8%、都府県112.2%)となった。法人について、北海道、都府県とも5%超の増収となった。北海道は労務費・人件費など経費が増加し前期並の利益(12.4百万円→12.3百万円)となった一方、都府県では経費の増加を抑え前期比増益(3.7百万円→6.6百万円)となった。
		都府県	785	→ 3.8%	→ 百万円未満	152	↑ 5.9%	↑↑ 76.6%	
	肉用牛肥育	458	→ 0.6%	↓↓ ▲33.2%	120	↑ 5.7%	↓↓ ▲59.9%	H26年度の牛肉卸売価格が全品種とも前年を上回る価格で推移。個人は前年並の収入(100.6%)、法人は増収となった。一方、素畜の価格上昇等から、個人、法人とも減益となった。	
	養豚	142	→ 3.4%	↑ 19.2%	201	↑ 7.0%	↑↑ 135.3%	H26年度の豚肉卸売価格が前年を上回る価格で推移したため、個人、法人ともに増収(個人103.4%、法人107.0%)増益となった。	
	採卵鶏	35	↑ 5.9%	↑↑ 80.4%	74	→ 1.1%	↓↓ ▲63.0%	H26年度の鶏卵価格が外食・加工向け等の需要が堅調なことから前年度を上回ったことを受け、個人は増収増益。法人について、売上は前年並(101.1%)も、材料費増加の影響を受け前年比減益。	
	ブロイラー	26	↑ 9.2%	↑↑ 29.9%	24	↑ 7.3%	↑↑ 黒字転換	H26年度の鶏肉(もも肉+むね肉)の卸売価格が前年度比107%と前年度を上回ったことを受け、個人・法人ともに増収増益となり、法人は黒字に転換した。	

・前年比(売上高) ↑↑ :10%以上増 ↑ :5~10%増 → :±5%増減 ↓ :5~10%減 ↓↓ :10%以上減
 ・前年比(所得・利益) ↑↑ :20%以上増 ↑ :10~20%増 → :±10%増減 ↓ :10~20%減 ↓↓ :20%以上減

注: 所得・利益については、増減幅が百万円未満の場合は上記によらず →とした。また、黒字転換の場合は ↑↑、赤字幅縮小の場合は ↑とした。

個人経営における平成26年収支状況

個人経営												
経営部門		サンプル数	経営規模			売上高(百万円)			農家所得(専従者給与控除前)(百万円)			
			単位	25年	26年	25年	26年	増減率	25年	26年	増減率	
				A	B	A	B	$((B/A)-1)*100$	A	B	$((B/A)-1)*100$	
耕種	稲作	北海道	65	水稲作付面積(ha)	13.9	14.3	28.0	26.4	▲ 5.5%	7.7	5.7	▲ 26.2%
		都府県	1,482		12.5	13.0	25.4	23.6	▲ 7.0%	7.0	4.7	▲ 33.1%
	北海道畑作		30	経営耕地面積(ha)	43.0	43.6	47.5	51.6	8.5%	9.1	11.3	23.9%
	果樹	北海道	331	第1位品目作付面積(ha)	2.9	2.9	16.8	16.8	0.0%	5.3	5.0	▲ 5.5%
			都府県		72	11.6	10.6	42.7	55.9	31.0%	14.1	16.0
	露地野菜		392	第1位品目栽培面積(千㎡)	3.7	4.0	32.5	32.6	0.4%	9.6	8.5	▲ 11.2%
	施設野菜		706		5.9	6.0	31.2	31.8	2.0%	8.3	7.5	▲ 9.6%
	施設花き		204	6.2	6.1	41.8	42.3	1.2%	7.9	7.8	▲ 1.5%	
	茶		181	茶園面積(ha)	5.8	5.8	28.0	27.0	▲ 3.6%	4.3	4.0	▲ 7.2%
きのこ		27	第1位品目収穫量(t)	50.2	47.7	33.9	34.3	1.0%	6.4	5.5	▲ 14.6%	
畜産	酪農	北海道	60	成牛頭数(頭)	100.2	101.3	97.7	102.2	4.6%	10.5	12.3	16.8%
		都府県	785		65.8	66.1	72.0	74.7	3.8%	6.7	7.5	12.2%
	肉用牛肥育		458	飼養頭数(頭)	260.5	255.6	132.8	133.5	0.6%	13.1	8.7	▲ 33.2%
	養豚		142	繁殖雌豚頭数(頭)	150.9	151.8	115.6	119.5	3.4%	11.7	13.9	19.2%
	採卵鶏		35	飼養羽数(千羽)	40.9	40.4	128.3	135.9	5.9%	5.0	8.9	80.4%
	ブロイラー		26		56.7	58.7	125.8	137.4	9.2%	7.0	9.2	29.9%

法人経営における平成26年収支状況

法人経営												
経営部門		サンプル数	経営規模			売上高(百万円)			経常利益(百万円)			
			単位	25年	26年	25年	26年	増減率	25年	26年	増減率	
				A	B	A	B	$((B/A)-1)*100$	A	B	$((B/A)-1)*100$	
耕種	稲作	709	水稲作付面積(ha)	28.2	29.1	60.2	57.0	▲ 5.4%	6.0	1.6	▲ 73.0%	
	北海道畑作		29	経営耕地面積(ha)	72.1	72.6	83.7	84.2	0.6%	2.6	3.8	42.9%
	果樹	北海道	37	第1位品目作付面積(ha)	9.0	9.1	106.7	105.0	▲ 1.6%	3.0	1.6	▲ 47.2%
			都府県		54	12.1	12.3	99.0	101.0	2.0%	2.0	1.9
	露地野菜		55	第1位品目栽培面積(千㎡)	15.2	15.6	111.3	116.5	4.6%	▲ 1.1	▲ 1.7	赤字幅拡大
	施設野菜		28		7.9	7.7	93.3	94.4	1.1%	1.1	▲ 0.2	赤字転落
	施設花き		46	茶園面積(ha)	21.3	21.6	98.0	98.6	0.7%	1.1	0.3	▲ 74.2%
	茶		24	第1位品目収穫量(t)	423.7	425.7	280.1	307.7	9.9%	18.7	28.4	51.9%
	きのこ		87	成牛頭数(頭)	260.1	249.2	226.4	239.1	5.6%	12.4	12.3	▲ 0.8%
畜産	酪農	北海道	152		164.4	164.7	182.5	193.3	5.9%	3.7	6.6	76.6%
		都府県	120	飼養頭数(頭)	1,303.1	1,338.5	631.2	667.5	5.7%	32.6	13.1	▲ 59.9%
	肉用牛肥育		201	繁殖雌豚頭数(頭)	546.8	545.9	472.2	505.4	7.0%	14.4	33.8	135.3%
	養豚		74	飼養羽数(千羽)	202.8	203.1	805.7	814.4	1.1%	24.1	8.9	▲ 63.0%
	採卵鶏		24		207.2	213.8	614.1	658.7	7.3%	▲ 2.5	8.1	黒字転換
	ブロイラー		24									

注1) 経営規模、売上高、農家所得及び経常利益は経営部門毎の平均値を記載

注2) 増減率はラウンドの関係で数値が合わない場合がある